

△▼讃岐「金刀比羅宮」を参拝▼△

現場組合員の航海安全・大漁を願う

1 月 9 日の大安の日、現場組合員各位の航海安全と大漁を願い、齋藤洋総務局長をはじめ、除補修中・四国地方支部長以下、中・四国管内執行部 3 人が、香川県琴平町、金刀比羅宮へ参拝し、ご祈祷を受けた

金刀比羅宮は、瀬戸内海国立公園に指定されている「象頭山」の中腹に所在し、全国に 600 社余りある、金刀比羅神社の総本山で、大物主神と崇徳天皇の 2 柱の神様が祀られている。

金刀比羅宮の海上安全への信仰は、香川県と岡山県に広がる備讃瀬戸に、大小 28 の島からなる塩飽諸島しわくがあり、古代より海上交通の要衝として知られ、操船技術に長けた島民は、古来より船乗りとして活躍してきた。

江戸幕府「咸臨丸」かんりんまるによる、日本初の太平洋横断に乗船した、日本人船員 50 名の内、35 名が塩飽諸島出身者であったことから、その操船技術の高さがうかがえる。

この塩飽の船乗りたちは、金刀比羅宮の旗を掲げ、全国で活躍してきたことから、信仰が広まったともいわれている。今でも、地元では「こんぴらさん」として親しまれ、海上交通安全や大漁祈願をはじめ、五穀豊穰、殖産や医療など広範なご神徳をもつ神様として、広く信仰され続けている。

・ _ ・ _ 御本宮 _ ・ _ ・

標高 251 m にあり、参拝者は 785 段の石段を上る

「海員だより」